

3-12

音楽療法への取り組み

心の扉を開く音楽療法を目指して

音楽療法

アクティビティ

社会福祉法人聖風会 台東区立たいとう高齢者在宅サービスセンター

介護職員 坂育 かおる

介護職員 鈴木 義紀

東京都台東区台東1-25-5

TEL 03-3834-4437

E-mail taitou@seifuukai.or.jp

FAX 03-5807-5738

URL http://www.seifuukai.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人聖風会が母体であるたいとう高齢者在宅サービスセンターは、平成13年6月に開設しました。一般デイサービス30名、認知症デイサービス12名（1日定員）で特別養護老人ホーム50床と短期入所生活介護10床、地域包括支援センター、ケアマネジメントセンターも併設している高齢者総合福祉施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 職員の介入による充実した音楽療法の達成。
- 個別対応により意欲低下のある利用者の変化の把握。
- 日頃の手話や合唱、合奏の練習の成果を発表する場を設ける。

〈具体的な取り組み〉

- あいさつの歌に合わせて一人一人にボディータッチ（手合わせ）を行い、必ず利用者全員と触れ合う。
- 合唱の際には、各個人へマイクを向ける。
- 講師1人対利用者40人では、全員の把握が困難なため、常時4～5名の介護職員を利用者側に配置する。
- 講師をサポートするため、介護職員2名が講師と共に前に立ち、利用者が参加しやすい環境を作る。
- 意欲低下のある利用者へは、職員1人が寄り添い精神的援助を行う。
- 音楽療法の担当者を介護職員から選出し、講師との話し合いの場を設ける。
- 課題になった曲をBGMとして流す。
- 音楽療法以外の時間にも課題曲や手話の練習を行う。
- 利用者にペットボトルや竹を使った楽器を作ってもらう。
- 敬老会の中に発表する場を設け、家族を招待する。

〈活動の成果と評価〉

- ボディータッチ（手合わせ）を行うことにより、利用者により親密に関われ参加意識が高まった。
- マイクを向ける事により、自己表現ができ自信が持てるようになった。
- 職員を利用者側に配置することで、スムーズにプログラムが流れ、利用者の表情や動作の把握がしやすくなった。
- 1対1で寄り添うことにより、今まで見ることの出来ない表情や動作の変化が見ることが出来た。
- 自ら楽器を作ることにより、より音楽が身近に感じられるようになった。又、片麻痺や握力のない利用者にも使えるような軽くて持ちやすいものなので、全員が合奏に参加できた。
- 担当制にすることにより、担当者と講師の間に信頼関係が確立され、プログラムや課題曲の提案が積極的にできるようになった。又、当日の反省や利用者の反応などを振り返ることができ、次回に繋げられるようになった。
- 発表の場を設けることにより、練習にも積極的に参加し、自宅でも自主的に練習する利用者もいた。又、参加した家族からは喜びの声が聞かれた。

〈今後の課題〉

- 音楽への興味が低い利用者へのアプローチ